

〈会議次第〉

I.開会

II.議題

- (1) 文京区地域福祉保健計画(保健医療計画)の追補について
- (2) 文京区地域福祉保健計画(保健医療計画)の実績報告について 【資料第1号】
- (3) 報告事項
 - ① 公衆浴場における混浴制限年齢並びに旅館業の浴室及び公衆浴場の構造設備及び衛生基準の見直しについて 【資料第2号-①】
 - ② 令和2年度ぶんきょうハッピーベビープロジェクトの実施結果及び今年度の取組みについて 【資料第2号-②】
 - ③ 東京都出産応援事業の実施について 【資料第2号-③】
 - ④ 文京区子育て世帯応援事業の実施について 【資料第2号-④】
 - ⑤ 高齢者肺炎球菌予防接種事業の費用助成について 【資料第2号-⑤】
 - ⑥ 文京保健所PCR検査センターの設置期間の延長について 【資料第2号-⑥】
 - ⑦ 新型コロナウイルス感染症の現状等について 【資料第2号-⑦】
 - ⑧ 新型コロナウイルスワクチンの接種状況及び今後の体制について 【資料第2号-⑧】
- (4) その他

III.閉会

〈地域保健推進協議会委員(名簿順)〉

出席者

神馬 征峰 会長、内海 裕美 委員、佐藤 文彦委員、三羽 敏夫 委員、岩楯 新司 委員、橋本 初江 委員、柴藤 徳洋 委員、神澤 輝実 委員、藤原 智子 委員、坂庭 富士雄 委員、渡辺 泰男委員、諸留 和夫 委員、黒住 麻理子 委員、白土 正介 委員、川田 智之 委員、小山 忍 委員、西村 久子 委員、小池 夏子 委員

欠席者

山道 博 委員、大内 悦子 委員、松尾 裕子 委員、藤原 武男 委員、谷川 武 委員、鶴見 純 委員

〈事務局〉

出席者

笠松保健衛生部長、榎戸生活衛生課長、渡部健康推進課長、長嶺保健衛生部参事予防対策課長事務取扱、野苧家新型コロナウイルス感染症担当課長、阿部保健サービスセンター所長

欠席者

なし

〈傍聴者〉

1名

I.開会

開会・委員の出席状況・配付資料の確認・会長への進行依頼

II.議題

榎戸課長：(1) 文京区地域福祉保健計画（保健医療計画）の追補についての説明（議事省略）

神馬会長：計画に修正を加えるのは、とてもいいことだと思います。

榎戸課長：今回は令和2年度及び3年度に、地域福祉保健計画の他の分野別計画の改定があったため、追補を行いました。他の分野別計画と改定のサイクルが異なり、ずれが生じるため、必要に応じて追補を行っています。

榎戸課長：(2)文京区地域福祉保健計画（保健医療計画）の実績報告について【資料第1号】の説明（議事省略）

諸留委員：歯周疾患検診の令和5年度目標値は12%ですが、「対象者分の受診者」で算出しているならば、非常に低い値だと思います。がん検診も同様に感じます。また、介護予防普及啓発事業については、65歳以上全てを対象者として、目標を3,910人と設定したのでしょうか。

渡部課長：歯周疾患検診について、12%では低いとお感じかと思いますが、当時の文京区の受診率を加味し、状況に見合った、達成し得る目標を立てております。

榎戸課長：介護予防普及啓発事業について、目標値となる参加者人数は、過去からの伸び率、収容できる会場や回数、時間帯等も考慮して算出しています。

神馬会長：資料の中に、母数についての説明を入れておいた方が、表の理解がしやすいかと思います。

諸留委員：数値の持つ意味を理解しやすくするために、もうひと工夫してほしいです。

柴藤委員：歯周疾患検診についてですが、歯科医師会に入会していない歯科医がかかりつけの場合、受診券が使いません。

渡部課長：検診を受ける医療機関については、区民の方のご判断となりますが、効率的に受診できるよう考えていきたいところです。なお、昨年度、30歳から45歳までの方に受診勧奨はがきを送付したところ、この年代の受診率が上昇しました。また、勧奨はがきの内容については、昨年度のこの会議での坂庭委員からのご意見を参考に、両歯科医師会とも相談の上、認知症その他様々な疾患が歯周疾患に関係する、という内容のはがきに変更しています。

三羽委員：歯周疾患検診の受診率については、両歯科医師会と行政で意見を出し合い、コロナ禍でありながら、かなり上がってきています。また、歯科医師会に入会していない歯科医療機関については、保健行政に貢献するためにも是非入会していただきたいです。

小山委員：特定健診について、文京区では1か所で全ての健診が受けられず、予約も取りづらいと思っていますが、この表の受診率を見ただけでは、企業等で健診を受けた人を含むのか、他区と比べてどうなのか等がわからず、数値が高いのか低いのかの判断ができないので、工夫していただきたいです。

渡部課長：1日に複数の健診を受けられる診療所もあり、予約が多い診療所については文京区民枠を増やしてもありますが、引き続き、受診しやすい環境を作ってまいります。また、アンケートによると、特定健診を受診しない理由として、時間がない、土日の受診を希望している等があるので、土日に受診できる病院の周知に力を入れております。なお、特定健診の対象者は基本的に区の国民健康保険加入者のみです。令和2年度、コロナ禍で区では1割減っていますが、全国的な減り幅と比較すると少ない方であり、23区の中でも受診率は低くない状況です。

西村委員：歯周疾患検診で、令和2年度に受診推奨のはがきを送ったのは、30歳、35歳、40歳、45歳の方のみにでしょうか。また、介護予防普及啓発事業について、感染対策も徹底しており、事業としては非常にありがたいのですが、予約が取りづらいので、工夫してほしいです。

渡部課長：歯周疾患検診で勧奨のはがきを送ったのは、30歳から40歳代の5歳刻みの方だけです。他の世代より大分低い受診率が続いておりましたので、まず、この年代に向けて、勧奨を行っております。

榎戸課長：介護予防は、所管が福祉部高齢福祉課になりますので、予約が取りにくい状況である旨は、伝えさせていただきます。

榎戸課長：(3) ①公衆浴場における混浴制限年齢並びに旅館業の浴室及び公衆浴場の構造設備及び衛生基準の見直しについて【資料第2号-①】の説明（議事省略）

渡部課長：(3) ②令和2年度ぶんきょうハッピーベイビープロジェクトの実施結果及び今年度の取組みについて【資料第2号-②】の説明（議事省略）

(3) ③東京都出産応援事業の実施について【資料第2号-③】の説明（議事省略）

(3) ④文京区子育て世帯応援事業の実施について【資料第2号-④】の説明（議事省略）

諸留委員：公衆浴場の件ですが、これは、他の区と足並みを揃えて実施しているのでしょうか。

榎戸課長：23区で同様に対応しています。おそらく全国レベルで足並みが揃っていると認識しています。

内海委員：ハッピーベイベープロジェクトの中学生用学習教材の配布対象が全区立中学校3年生とありますが、私立中学に通うお子さんはどうするのですか。

渡部課長：まずは区立からということで、区立中学の方にお配りしています。私立中学の方にお配りすることについては、今後の課題とさせていただきます。

諸留委員：私立だけじゃなくて国立もありますが。以前の教材と比べると、内容が良くなっていると思います。毎回見直して、より良いものにしていただきたいと思います。

神馬会長：文京区子育て世帯応援事業についてですが、他の区とも足並みは揃っているのですか。

渡部課長：この事業は区独自の事業であり、類似の事業を実施している区もあれば、実施していない区もあり、対象者、金額、形態等も各区それぞれです。文京区の場合は、東京都の支援から漏れてしまった、コロナ禍で子育てをされている方ということで、対象を決めたところです。

神馬会長：何らかの評価の声をまとめられると、次回似たようなことがあったときにも、役に立つのではないかと思います。

長嶺課長：(3)⑤高齢者肺炎球菌予防接種事業の費用助成について【資料第2号-⑤】の説明（議事省略）

渡部課長：(3)⑥文京保健所PCR検査センターの設置期間の延長について【資料第2号-⑥】の説明（議事省略）

長嶺課長：(3)⑦新型コロナウイルス感染症の現状等について【資料第2号-⑦】の説明（議事省略）

野苺家課長：(3)⑧新型コロナウイルスワクチンの接種状況及び今後の体制について【資料第2号-⑧】の説明（議事省略）

坂庭委員：感染が拡大する前に下水道を調査すると、コロナウイルスが検出されるという話を聞いています。高齢者施設のすぐそばにある下水を定期的に検査すると、早めに、その施設が危ないということがわかるのではないかと思います。高齢者は重症化リスクが高いので、文京区独自でそういう検査をやってはどうかと考えます。

笠松部長：新型コロナウイルス感染症の対策については、国が各分野の専門家を集めて会議を開き、国としての基本的対処方針を定めておりますので、区としてはその方針で進めていきたいと考えております。

野苺家課長：下水道の調査については、即答はしかねますけれども、高齢者の方のリスクが高いことは、当然認識しております。ワクチンについて、医療機関、高齢者施設等のリスクが高いところへの前倒し接種が、国の方針として示されるのではないかと考えており、その場合には、区としても当然実施していくよう、準備を進めていきたいと考えております。

神馬会長：行政としては、国や都の方針を超えた対応は難しいかと思いますが、NGO、NPO、大学の研究室等、行政に縛られないところからのアプローチで、国に先んじた初期対応ができる可能性もあるのではないかと思います。色々な意見を集約して、柔軟に対応していけばいいかなと思います。

死亡例は、文京区はゼロでしたでしょうか。

長嶺課長：はい。自宅療養者につきましては、死亡はゼロでございます。

神馬会長：どの部分が一番成功要因だったか等、何かございますでしょうか。

長嶺課長：やはり、非常にありがたかったのは、医師会、薬剤師会の先生方のご協力や、なかなか連絡がつかない方々については、警察にもご協力いただいて、所在不明にならないで済んだこと等、地域の力を大きくお借りできたところかなと感じております。

小山委員：文京区では感染のピークの時に、どれぐらい連絡がつかない、連絡をもらえないような状況だったのでしょうか。

長嶺課長：お盆のころが一番厳しい状況でしたが、発生届をいただいた時に、酸素の飽和度を中心にリスクを鑑み、優先度をつけて、一番早く連絡をつけるべき方にご連絡していました。軽症の方で、数日連絡がつけられなかったことはありましたが、区の内部で応援職員を得てからは、速やかに連絡がつくようになり、また、医師会の先生方には発生届の酸素飽和度のところをしっかりと書いていただくといったご協力もいただきまして、確実に患者さんにご連絡をつけることができたと考えております。

坂庭委員：コロナが落ち着いたら、今後のために反省点等を振り返り、行政として総括をしてほしいと思います。保健所だけでなく、専門家も交える等して検討していただきたいと、強く願います。

榎戸課長：今回のコロナ対応も、新型インフルエンザ等対策行動計画という行政計画に基づいて行っていますが、計画通りにいかなかったケースもありましたので、コロナを踏まえた形で、今後、計画のバージョンアップを図るよう、考えております。

神馬会長：今後、もし予算をつけられるようであれば、評価委員会を作る、大学、その他研究機関の担当者を入れる等して、新型コロナウイルス感染症に特化した報告書をつくり上げるというのもあり得るのではないかと思います。

諸留委員：非常にいいと思います。人事異動等あるが、継続してうまくできたらいいと思います。

神馬会長：できれば、今日の皆様の意見に基づいて何をフォローアップしていくか等、検討いただければと思います。

Ⅲ. 閉会

榎戸課長：本日はご多忙にもかかわらず、ご出席いただきまして、誠にありがとうございました。